

令和 8 年度 研究計画の概要

1 研究主題名

自らの学びを問い、選び、次につなげる子どもの育成
～学習指導要領の理解を通じた児童の学びを深める授業づくり～
(1 年次)

2 本校の研究について

(1) 主題設定の背景

本校では、平成 20 年度の開校以来、「活用する力」を意識した授業づくりに継続して取り組み、児童一人一人の思考力・判断力・表現力の向上を目指して研究を進めてきた。特に令和 3 年度からは、「主体的・対話的で深い学びの実現」を主題に掲げ、算数科を中心とした授業研究を積み重ねてきた。これまでの研究では、問題提示の工夫や学習の見通しのもとせ方、児童の思考の流れに寄り添った学習過程の計画を大切にしてきた。また、児童同士の対話や教師と児童との対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりする学習場面を意図的に設定し、児童が主体的に学びに向かう授業づくりを進めてきた。その結果、自分の考えをもって課題に向き合う姿や、友達の考えを取り入れながら学びを深めようとする姿が見られるようになるなどの成果が得られている。

一方で、前年度の職員アンケートでは、「算数科の研究で身に付いた力を他教科や領域でも活用していくこと」や、「主体的な学びを支える環境づくり」に関して消極的な回答が多く見られた。算数科の授業改善は進んできたものの、研究の成果が算数科の中にとどまりやすく学校全体の授業改善へ十分につながっていない現状がある。また、児童アンケートでは、「学校で学習したことを家庭で復習したり、さらに力を付けるために他の問題に取り組んだりしているか」という項目に対して、消極的な回答が多く見られた。このことから、授業の中で学習に取り組むことはできていても、学習したことを振り返ったり、自ら次の学びへとつなげたりする力には課題があることが分かる。これからの社会において求められるのは、教師に与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら課題を見いだし、学び方を選びながら主体的に学び続けることのできる子供の育成である。そのためには、児童が「問いをもち、学び方を選び、振り返って次につなげる」という学びの過程を大切にしたい授業づくりが必要である。

さらに、社会は今、グローバル化やデジタル化、生成 AI の急速な進展により、子供たちを取り巻く社会はこれまで以上に変化のスピードを増している。予測困難な時代の中で、単に知識や技能を習得するだけではなく、自ら課題を見いだし、必要な情報を選び、学びを次へとつなげながら学び続ける力が求められている。加えて、次期学習指導要領の改訂に向けた動きも進んでおり、小学校では令和 12 年度の全面実施が見込まれている。現段階から学習指導要領の見方や活用の仕方を学校全体で共有し、授業づくりの基盤としていくことは、今後の教育課程の変化に柔軟に対応する上でも大きな意義をもつ。

このような教育の変化に対応していくためには、教師一人一人が学習指導要領の趣旨を理解し、育成を目指す資質・能力を明確にしながら授業づくりを行うことが必要である。しかし、本校では若手教員が増えている中で、学習指導要領の見方や授業づくりへの生かし方について十分な共通理解があるとは言えず、教科書を中心とした授業づくりにとどまっている場面も見られる。今後の教育課程の変化に対応していくためにも、現行の学習指導要領を基に授業づくりを進める視点を校内で共有し、教師の授業力向上を図っていくことが重要である。

このような学校の実態と今後の教育動向を踏まえ、本校では、学習指導要領の理解を基盤としながら、児童が自らの学びを問い、選び、次につなげていくことのできる授業づくりを進める必要があると考え、本研究主題を設定した。

（２） 研究主題の趣旨

本研究では、学習指導要領の理解を基盤とし、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりを通して、児童の学びを深めることを目指す。

これまでの研究においては、「主体的・対話的で深い学びの実現」を主題に、算数科を中心とした授業改善に取り組み、児童が自分の考えをもち、他者と関わりながら学びを深めていく姿が見られるようになってきた。本研究では、その成果を踏まえつつ、児童が自らの学びを振り返り、次の学びへとつなげていく力の育成に一層焦点を当てる。

具体的には、児童が学習の見通しをもち、自ら問いをもって学びに向かうとともに、学習の過程において考え方や方法を選択し、さらに振り返りを通して自らの学びを捉え直し、次の学びへとつなげていく姿を目指す。これらの学びの過程を通して、児童が自らの学びを調整し、主体的に学び続けようとする態度を育成することを目指す。

また、本研究は２カ年計画で進める。１年目は算数科を中心に、学習指導要領に基づいた授業づくりや、「問い・選択・ふり返し」の視点を位置付けた学習過程について研究を深め、共通の授業の在り方を整理する。２年目は、その成果を他教科や領域へと展開し、学校全体としての授業改善につなげていく。

そのために、算数科を中心に、学習指導要領に示された内容と資質・能力との関連を意識しながら、単元構成や学習過程の工夫を行う。特に、「問い・選択・振り返り」の視点を授業の中に位置付けることで、児童の学びの過程を明確にし、共通の授業の在り方を整理する。また、授業実践を通して得られた成果や課題を校内で共有し、教師一人一人が学習指導要領を基盤とした授業づくりを行う力の向上を図るとともに、その成果を他教科へと展開し、学校全体としての授業改善につなげていく。さらに、児童が主体的に学びに向かうための学習環境の整備や、教材・教具の工夫についても検討し、児童が自らの学びを問い、選び、次につなげていくことのできる学習環境の整備を図る。

本研究を通して、児童が自ら学び続ける力を身に付けるとともに、教師が学習指導要領を基盤とした授業づくりを行うことができる学校の姿を目指す。

３ 研究内容

（１） 研究の視点

① 問い

児童が学習の見通しをもち、自らの問いをもって学びに向かうことができるような学習課題や問題提示の工夫を行う。

② 選択

児童が自分の考えや学び方を選択しながら学習を進めることができるよう、表現方法や解決方法を工夫する場を設定する。

③ 振り返り（つなぐ）

児童が自らの学びを振り返り、学習内容や考え方を次の学びへとつなげることができるような振り返り活動を工夫をする。

（２） 授業レベルでの手立て

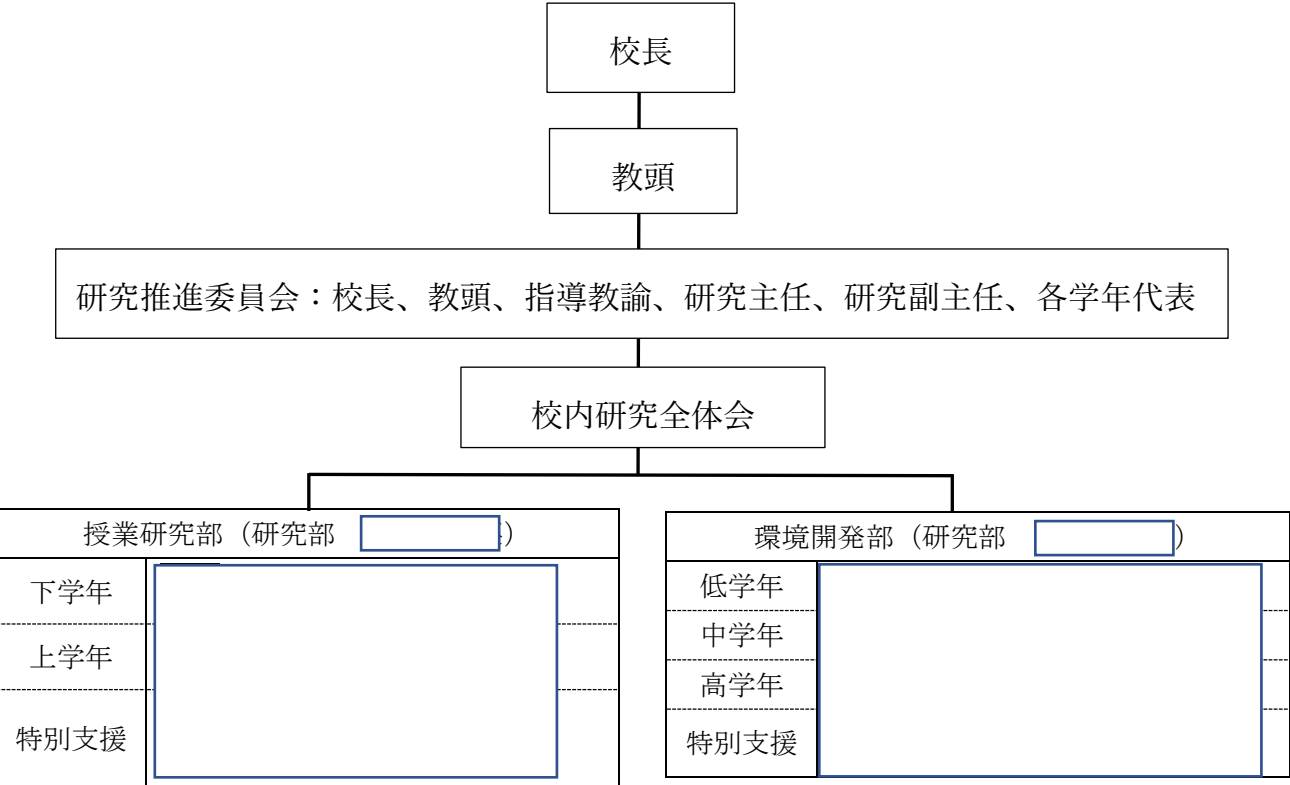
① 学習過程

問い・選択・振り返りを位置付けた学習過程の工夫

② 学習環境

児童が主体的に学ぶための学習環境の工夫

4 研究組織



研究推進委員会

- ・研究方法、内容、計画の立案・提案
- ・研究全体の推進、研究推進に関わる情報の共有
- ・研究の連絡調整、全体会の計画

① 校内研究全体会

- ・研究推進委員会の提案についての協議、共通理解
- ・研究についての検討、調整
- ・指導方法等についての研究、授業研究会での実践

② 授業研究部

単元計画、授業づくりの検討・提案、実践

③ 環境開発部

学習に必要な学習規律、授業の約束事、教室・校内の掲示物作成

5 研修計画

月	日	研修名	主な内容
4	6	第一回 研究推進委員会	○ 今年度の研究の方向性の検討
5	下旬	第二回 研究推進委員会	○ 今年度の研究の方向性、研究組織、研修計画、児童アンケートの内容の見直し
5	20	第一回 校内研究全体会	○ 今年度の研究の方向性、研究組織、研修計画、児童アンケートの内容の提案
6	上旬	第三回 研究推進委員会	○ 指導案形式、研究会の持ち方等の検討
6	中旬	第二回 校内研究全体会	○ 講師招聘研修会（予定） 「学習指導要領を基盤とした授業づくり」
6	下旬	第一回 全体授業研究会	○ 研究副主任による提案授業

			○ 指導案形式、研究会の持ち方等の提案
7	下旬	第二回 校内研究全体会	○ 授業実践の検討
8	上旬	第三回 校内研究全体会	○ 講師招聘研修会（予定） 「問い・選択・ふり返りを位置付けた 授業づくり」
9	30	第四回 校内研究全体会 第二～四回 全体授業研究会	○ 授業実践の検討 ○ 上学年部・下学年部・特別支援部 公開授業・授業研究会
10	21		
11	25		
12	16		
12	下旬	第四回 研究推進委員会	○ 授業研究会の振り返り 研究のまとめ確認
2	24	第 回 校内研究全体会	○ 研究のまとめ確認・作成
3	下旬	第 回 研究推進委員会	○ 研究の振り返り 推進委員からの意見
3	下旬	第 回 校内研究全体会	○ 研究の振り返り